

抄 録

ソーシャル・ケースワークへの本質的接近

寺 本 喜 一

第一部として、ケースワーク、カウンセリング、ガイダンス、心理療法等の混在と相互協力を考える準備工程を行い、第二部としては、学校ケースワークについて、① 人間現存の確信について ② 人間関係設定過程の効果について ③ 社会資源の活用について論じた。〔社会福祉学(日本社会福祉学会編) 第1巻第2号1961年5月〕

公的扶助ケースワーク論

寺 本 喜 一

公的扶助を社会保障的側面から見ることを一応控えて社会福祉的側面からの統合を試みたものである。〔兵庫県民生部厚生課資料 1961年11月〕

社会福祉における更生の意義について

寺 本 喜 一

精神薄弱者及び身体障害者の更生を論じたものである。〔滋賀県厚生部資料 1962年3月〕

スーパーヴィジョンについて

寺 本 喜 一

「ケースワーカー」が専門職として発展するためには監督機能、助言機能、教育機能をもつ、より高度の見透しをもつ専門職としてのスーパーバイザーの機能を論じたものである。〔京都府民生労働部資料 1962年6月〕

産業カウンセリングの現況

坂 田 一

産業における人間関係的管理の一環としての産業カウンセリングの実態を把握して、前進と展開の手がかりを得ようとした。全国80社を選び、40社回答。人数は男35, 女7。厚生課所属など、人事監督の立場以外の系列が多い。様式は純粋な非指示的立場は少ない。相談内容が職場の人間関係、職業問題が非常に多く、経済問題、住宅問題、家庭問題が次ぎ、法律、結婚異性問題の順となつていくが、このように精神衛生的なもの、生活相談的なものなど多岐にわたつていくので、接近の仕方も一樣ではない。また集団カウンセリングの併用もかなりみられる。職場不適応の根底になんらかの精神的障害が潜在する場合が多く、要因を見抜く努力と技術が要請される。従業員の悩みの解消、モラルの高揚は労使双方の福祉であり、斯分野の重要性は無視できない。〔職場と人間関係第2号 1962年2月〕

集団指導における測定の試み

坂 田 一

学級集団の成員の心構えをモラル・サーベイによつて、全体的、力動的に把握し、その結果を集団指導にどのように役立てるかの追究を試みた。対象は高校2,3年24クラス。2回の調査の中間に、ホームルーム及び生徒会のグループワークを行なつて、フィードバックした。1. 集団への適応。独善的、功利的な意見に対して集団規制的な批判が加えられると自由がないとし、教師との関係からみると、権威依存的であつて、民主的態度が真に身につくまでに至つていない。素朴な功利的自我が歪んで現われ、曲つた仲間意識が、善良な生徒をエゴイスト視する。2. 生活態度の指導。学級、学校集団に何か不満がある場合には、フラストレーションをもたらす障壁のうちでも設備のような具体的な対象に向かつて攻撃が行なわれる。教師、友達とのよき人間関係が全領域に広がる傾向がある。〔教育心理第9巻第11号、1961年10月〕

“Psychological wisdom in Japan” in “The world of mind” edited by Dr. Gardner Murphy.

Sato, K. and Tsushima, T. (佐藤幸治・津島忠)

日本の仏教や儒教における人間の心のとらえ方や精神衛生、精神身体医学的な知見、文芸作品や俚言、昔話、格言等を通じてみられる日本人の心理や生活の智慧を収録し、併わせて、日本における現代心理学の発展過程を附説したもの。本書はマーフィ博士が世界の主要国の心理学者、文化人類学者、社会学者等に依頼して夫々の国の“psychological wisdom”を集大成し、人格心理学者、社会心理学者としての立場からこれに解説を付して刊行するわけである。Dr. G. Murphyは前コロンビア大学教授、前米国心理学会会長で現在メニンジャークリニック研究部長。著書“Personality”, “Experimental Social Psychology”, “Human Potentiality”他数冊がある。〔Knopf Co. New York in press〕

児童のスクール・フォビア(学校恐怖症)について

津 島 忠

現代の小学生、中学生において大きな問題の一つとなつていく学校恐怖症(スクール・フォビア)の原因とその対策について、大阪市大の中 修三教授(精神医学)等と協同対議を行つた。筆者は、学習心理学、深層心理学的立場から、スクール・フォビアの心理機制を追求し、その治療対策を示唆した。〔大阪精神衛生研究会 年次大会シンポジウム・1961年7月25日〕